

2024年9月1日（日）第二礼拝「ゆるしの方法」ルカ 23章 34節

自分に傷を与えた人を赦すことができず、不眠になり鬱になってしまう、そんな苦境の中にいる方もおられると思います。しかし、その傷を与えた相手を赦し、その件を忘れられるよう力を与え、勝利できるように神様は導いてくださいます。

第一番目、主の赦しの方法です。本文 34 節にある「赦す」という言葉(アペス)は、「すっかり忘れてしまう、手元に残さず送り出す」という意味です。「わたしは…あなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」(イザヤ 43:25)「東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。」(詩篇 103:12)“罪を思い出さない”、これが神様の赦しです。その赦す理由は人の無知のゆえです。もし、自分の罪を悟っていたら、栄光の主を十字架につけなかったでしょう。無知のゆえに十字架上で強盗の一人はイエス様をあざけりました。もう一人はイエス様の祈りを聞いて、自分の罪のゆえにイエス様が代わりに十字架にかかったことを悟り、その罪を告白し赦されました。そしてイエス様は彼に「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」と言って永遠のいのちを与えられました。救いは信じる今その瞬間に起こるのです。

第二番目、赦しは愛です。愛によって悪に打ち勝ちます。復讐は更なる復讐を呼びますが、赦しの力は聖霊様から受けます。神様ご自身が復讐されると言われるからです。復讐は神様に委ね、聖霊様によって相手を赦し愛することが大事なのです。赦しは愛です。「右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。」(マタイ 5:39) 当時ローマの植民地では一ミリオン毎にしるしがあり、そこに居合わせた人に荷物を一ミリオン運ばせましたが、聖霊様に満たされたクリスチャンは二ミリオン以上運びました。義務以上のことを喜んで行う心は聖霊様から与えられます。そのクリスチャンの良い行いが伝道になったのです。

第三番目、どのような状況下でも祈りをやめてはいけません。主の御名を呼ぶ時、主が臨在され、主の力が私たちに臨みます。その時、自分に酷いことをした人たちを赦す力を得、その相手の事情を理解する心をも与えられます。ソサンボ牧師の父親は彼の出生後すぐに家出をしました。中学生の頃、その父が家に戻り、毎日お酒を飲み、暴力をし、学校にも早天祈祷にも行かないように強制しました。ある時彼は父からナイフで頭を刺され、これ以上治療ができないため家に帰されました。そして寝ている自分の父を抱き、その罪を悔い改め、代わりにイエス様を受け入れる祈りをしました。その時から彼の父は変えられました。彼を通して神様の愛を体験したのです。イエス様は迫害した者たちに対し、「彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」と祈られました。十字架上でこの祈りを聞いた強盗の一人に聖霊様が臨み、彼は変えられ救われました。イエス様の正面に立っていた百人隊長は十字架刑を指揮する現場監督でしたが、彼もまた救われました。イエス様の赦しの祈りをによって人々が変わられていきました。私たちも天国に行くまで、このイエス様の赦しの祈りを祈り続け、人を赦し愛していきましょう。アーメン！